

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころのデイケア虹の森（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月8日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	105	(回答者数) 73
○従業者評価実施期間	令和6年10月8日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のお子さんの特性に合わせた療育を提供していること	<ul style="list-style-type: none"> 個別でのサービス提供を基本とし、プログラムを50分ごとに区切り、頻度に応じて固定枠を決定している。 利用されるお子さんの特性やニーズに応じて、心理療法や療育、学習支援、就労支援等を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高めるため、研修を実施していく。 お子さんや保護者のニーズに合わせて、さまざまな活動を柔軟に取り入れていく。
2	併設されたクリニックの医師との連携をとりながら支援を提供できること	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との相談の中で医療機関への相談が望ましい場合、受診につなげて不安の解消につなげている。 対面診察が難しい場合には医師とのオンライン面談をご案内して、いつでも相談できる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談実施にあたって、どのようなことに対して不安や心配になっておられるのか保護者の考えを尊重するようなかかわりを努める。 引き続きオンライン面談の実施周知をはかるようにしていく。
3	アットホームな空間になっていること	<ul style="list-style-type: none"> 初めて来る場所への不安や緊張をなるべく減らし、気軽に来所してもらえるような雰囲気づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、アットホームな空間を維持できるよう環境整備を行う。 必要に応じて意見交換を行い、より良い空間づくりに努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の活動が不足していること	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小学校を利用するお子さんも多く、日々の生活の中ではそれぞれのお子さんが地域のお子さんとの交流機会があることが推察されるが、当事業所の中でかかわる機会は少ない。 個別プログラムを提供しているため、そもそも集団の場を設定することが現実的に少ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇などを利用して、無理のない範囲で小集団で行えるような企画を開催してみる。ただし、利用されるお子さんの中には集団参加に対する不安や緊張を感じる方もおられるので、十分配慮して開催内容を検討していく必要がある。
2	保護者同士の交流の機会が少ないこと	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の交流の場として「ほご茶会」を開催しているが、働いておられる方も多く、定期的な交流の場の開催が現実的に難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほご茶会」の日程や時間などを、保護者の都合を考慮して開催できるように工夫していく。 保護者が交流にあたってどのようなことを求めているのか、ニーズを把握する。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころのデイケア虹の森（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和6年10月8日	～	令和6年11月30日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	令和6年10月8日	～	令和6年11月30日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々のお子さんの特性に合わせた療育を提供していること	<ul style="list-style-type: none"> 個別でのサービス提供を基本とし、プログラムを50分ごとに区切り、頻度に応じて固定枠を決定している。 利用されるお子さんの特性やニーズに応じて、心理療法や療育、学習支援、就労支援等を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高めるため、研修を実施していく。 お子さんや保護者のニーズに合わせて、さまざまな活動を柔軟に取り入れていく。
2	早期からの受け入れ態勢を整えていること	<ul style="list-style-type: none"> 当事業所のサービスは3才から利用可能。健診にて発達にかんすることを心配されたり、通園先から紹介を受けたことをきっかけに利用される方が多い。早期療育の実施にあたって、発達特性や発達段階に応じた療育内容を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種での連携をとりながら情報共有を行い、さまざまなアプローチ法を検討しチーム支援に取り組んでいく。 職員の専門性をさらに高めるため、支援方法やアプローチを学べる外部研修等への参加を促進していく。
3	併設されたクリニックの医師との連携をとりながら支援を提供できること	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との相談の中で医療機関への相談が望ましい場合、受診につなげて不安の解消につなげている。 対面診察が難しい場合には医師とのオンライン面談をご案内して、いつでも相談できる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との面談実施にあたって、どのようなことに対して不安や心配になっておられるのか保護者の考えを尊重するようなかかわりを努める。 引き続きオンライン面談の実施周知をはかるようにしていく。
4	アットホームな空間になっていること	<ul style="list-style-type: none"> 初めて来る場所への不安や緊張をなるべく減らし、気軽に来所してもらえるような雰囲気づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、アットホームな空間を維持できるよう環境整備を行う。 必要に応じて意見交換を行い、より良い空間づくりに努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足していること	<ul style="list-style-type: none"> 保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもと活動する機会を活動として提供できていない。 50分のプログラムとして行っており、療育課題の設定やアセスメントにあたって普段通園されている保育所や幼稚園との連携はかかせないが、交流機会に繋がられるような機会があまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内での交流機会を設定することが難しい場合、交流機会となりうるような関係機関先につなげて役割分担をしながら支援を提供できるようにしていく。 保護者の方の要望なども伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討していく。
2	保護者同士の交流の機会が少ないこと	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の交流の場として「ほご茶会」を開催しているが、働いておられる方も多く、定期的な交流の場の開催が現実的に難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほご茶会」の日程や時間などを、保護者の都合を考慮して開催できるように工夫していく。 保護者が交流にあたってどのようなことを求めているのか、ニーズを把握する。
3			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころのデイケア虹の森（保育所等訪問支援）		
○保護者評価実施期間	令和6年10月8日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和6年10月8日		～ 令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年10月8日		～ 令和6年11月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所の児童発達支援または放課後等デイサービスを利用しているお子さんが保育所等訪問支援事業も利用されていることがあり、園や学校をはじめとする集団内での活動の様子をしながら、訪問することができている。	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援員をはじめ、通所サービスの担当者や園や学校などの訪問施設先との情報共有を密に行っている。 必要に応じて支援会議などの場を設定し、進学進級後も切れ目のない支援を提供できるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内では関係者同士で情報共有を行い、お子さんに対する支援について共通理解を深めておけるように引き続き努めていく。 訪問施設先や保護者のニーズを把握しながら、必要に応じて支援会議などの場を提供していく。
2	訪問施設先からはタイムリーに相談できること、利用児童・生徒のみならず家族支援や関係機関との連携といった多方面からのアドバイスをもらえることに対する評価を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> 現場で取り組んでおられることを尊重しながら、よりよい支援に繋げるための方法についてお伝えするようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き直接支援および間接支援の充実させていく。 お互いにエンパワメントできるような支援体制を整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問事業を希望する利用者に対する職員の配置数	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援および放課後等デイサービスの兼ね合いなどもあり、そもそも枠として確保することが難しくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後利用希望されるお子さんに対応できるよう訪問事業の枠を増やせるよう検討していく。
2	職員の資質向上を図るための研修を受講する機会や法人内での研修機会を確保することが難しい	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内での研修機会の確保は現実的に難しい部分があるため、個人的に研修を受講しているのが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問事業ではさまざまなニーズを求められる可能性が考えられ、訪問支援員には幅広い知識や専門性が求められるため、研修の機会を確保していくことが望ましい。訪問支援員同士で情報共有を行い、お互いの資質向上に資することができるような体制を整えていく。
3			